

峠の向こうは春

京阪神私立高校一次入試終了！

私立高校の受験が終わりました、お疲れ様でした。私立高校を推薦や専願で受験し合格した人は、これで高校受験が終了です。これからは、4月からの高校生活開始に向けて準備を進めることとなります。同時に人生で一度しかない残りの中学校生活をどう過ごせばいいのか、考えてみてください。また、1年間一緒に頑張ってきた仲間のために、何かできることはないか考えてみてください。

第1希望が公立高校の人は、今週末に実施される前期選抜や3月の中期選抜に向けて、もう一度気持ちを引き締めて学習を進めましょう。

さて、入学試験の結果は「合格」と「不合格」の2種類しかありません。例えば100点満点の入試があって、60点が合否ラインであれば、100点をとった人も60点の人も同じ「合格」だし、59点の人はわずか1点の差ではありますが「不合格」と判定されます。

わずか1点だけの違いで4月から通う学校が変わることになりますが、60点で合格した人と59点で不合格になった人の学力差が1点であることには変わりありません。そして高校3年間の学習をどのように頑張るか、この「1点差」を逆転できる可能性は十分にあります。

もっと言えば数点の差であれば前期選抜までの1週間、中期選抜までの4週間でもひっくり返すことができるかもしれませんね。

つまり、受験結果という過去は、もう変えようがありませんが、未来はあなたの努力次第で変えることができるということです。このことは見事合格した人にとっても同じです。この数ヶ月間の受験生活の中で君たちが学んだ事は、各教科の知識や思考方法だけでは無いはず。この受験で学んだことは、「自分の目標を実現するために精一杯努力すること」「諦めず努力を積み上げれば、自分の能力が高まること」だと思ふし、身につけた最も大切な能力は「毎日学習する習慣」だと思ふます。

そしてこの自信と習慣こそが「高校生活に必要な能力」ではないでしょうか？

この大切な事柄を受験が終わったからと言って無くしてしまうのは惜しいです。

高校生活に必要なこと

高校生活を充実して過ごすために必要なものとは何でしょうか？

受験を体験した君たちであれば真っ先に「学力」をあげると思ふます。もちろんこの通信でも何回か触れているように、高校の学習を進めていくために必要な学力が無ければ困ると思ふます。でもそれだけではありません。「知は力」と言ふます。知らないよりも、知っていることが一つでも多い方が、豊かな人生を送ることができる可能性があります。

一方、高校は義務教育ではなく、自分の意志で進学するものです。だから学校によっては中学校よりも多くの部分を自分の判断で決めることが要求されます。そして自分で判断した以上、行動の結果には責任を負うことにもなります。その「自由」の中でどんな判断をして、どんな行動をするのかを決めることは大切な力です。

例えば、京都の高校の中には、とても自由な校風で、制服のない高校もあります。では、その高校の生徒達はどんな姿をしているのかといえば、服装がバラバラである以外、他の高校とあまり変わらないそうです。また、土曜日や日曜日に部活動をしている生徒の姿を見ると、他の高校とまったく変わりありません。なぜ変わらないかと言えば、スポーツをするのに最適な姿（服装などを含む）は、校則のあるなしに関わらず同じだからです。真剣に部活動に向き合うのであれば同じような姿になるのは当たり前です。

「叱られないから」「指導されないから」「周りの多数がそうしているから」「それでいいんだ」という判断基準を頼りにしている人は、中学校卒業を機に、そのことから卒業すべきです。

「この場面では、こうすべきだ」「自分の目標を達成するためには、こう行動すべきだ」という判断基準を持てるのが義務教育を終了した高校生だと思ふます。

そしてもう一つは、「人とつながる力」です。みなさんは、これまで9年間義務教育の中で、この長三中の地域の中で、学校に通い、教育を受けてきました。中には、小学校1年からよく知っている仲間も多いと思ふます。その中で人間関係をつくってきました。そして、この長三中を卒業して高等学校に行けば、もっと広域から学校に通う同級生や先輩と過ごすこととなります。もう一度、人間関係作りが始まります。その中には、自分がこれまで会ったことのないタイプの人との出会いがあるかもしれません。行動範囲も広がります。そんな中で、試されるのは、みなさんの「人とつながる力」です。自分とは性格の違う人、考え方や行動が違う人、そんな人たちと一緒に生活し、共に一つのことを作り上げたり、ということがあつてしょう。

そんな時に、以前でも紹介したような「マウントをとる行為」を繰り返しているようでは、これまで9年間何を学んで来たのか？ということになります。いじめやいじめによる自殺などが新聞やテレビ等で報道されることが絶えません。あるいは、障害のある人を差別する人もいます。また、意見が違うからと言って、感情的攻撃的に対応したり、名前も名乗らず一方的に人を攻撃する状況がこの日本で広がっています。みなさんにはそんなふうになって欲しくありません。LGBTの学習もしてきたように、多様な人々を認めるのが、これからの社会のあり方です。人の立場に立って考える力やお互いをリスペクトできる力があつれば、こんなことは起こらなかつたかもしれません。

みなさんには、これからそんな力をつけて卒業して、新しい道を歩んで行ってほしいと思ふます。